Sogo Rehabilitation
総合リハビリテーション
Vol. 47 No. 2
2019 2

脳卒中診療とデータベース

Medical care and database for stroke

脳卒中患者数増加とともに，リハビリテーション医療を含む脳卒中医療費は増加の一途をたどっており，限られた医療費のなかで良質な医療を提供するために，脳卒中診療の体制整備や効率化が求められています．医療データベース（database；DB）をもとにしたビッグデータの活用などが進められ，脳卒中診療においても医療の質の評価（quality indicator；QI）の導入が検討されています．今回，研究あるいは事業として進められている脳卒中 DB 登録について，リハビリテーション関連職種も知っておくべき脳卒中 DB を取り上げ，今後の普及や活用に向けた特集を企画しました．折しも，特集内でも触れられている DB 登録事業の法整備につながる「脳卒中・循環器病対策基本法」が国会で可決，成立したというビッグニュースが舞い込んできました（2018 年 12 月）．わが国の脳卒中診療が大きく変わる前触れのように感じています．

脳卒中患者のデータベース　林　尊弘氏ら …… 101

脳卒中登録研究における海外の動向，日本の脳卒中診療における症例登録（事業/研究）の目的や DB 構築の意義および継続性の課題について述べられている．海外の DB に比較して，わが国の DB はデータの結合の問題などで悉皆性のある全国規模のシステムになっていない．わが国の脳卒中 DB は，法の下で進められているがん登録事業などのがん対策に対して大きく後れを取っている現状がある．

日本脳卒中データバンク　石上晃子氏ら …… 107

日本脳卒中データバンクは，脳卒中急性期診療を担う全国の中核病院が任意に参加し，患者個票を用いて急性期脳卒中症例の詳細情報を収集する疾病登録事業である．200 以上の施設が登録に参加し，16 万例を超える患者情報が収集されており，わが国の脳卒中データを標準化し，脳卒中急性期診療の実態を経年的に報告している優れた DB である．リハビリテーション医療が主となる回復期以降のデータや転帰情報の収集が課題である．

J-ASPECT study　連　乃駿氏ら …… 115

脳卒中医療の質の向上および医療体制の整備を目的に J-ASPECT study が開始された．本事業による DB は，Diagnosis Procedure Combination（DPC）データ・レセプトデータをもとにしており，脳卒中診療における全国規模の DB であり，毎年 400 施設が参加し，脳卒中症例が累計約 71 万件登録されている．本 DB をもとに，QI 評価であるアウトカム指標（効果・成果指標）やストラクチャー指標（施設要因）の解析が実施されている．

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2019

2026/11/11 09:21:32

福岡脳卒中データベース研究　佐藤倫子氏ら ····· 119

本研究事業は，共通の診断基準や治療方針のもとに専門医療を実施できる福岡県下の 7 つの脳卒中専門病院からなる多施設共同脳卒中 DB である．これらの施設に入院した発症 7 日以内の脳卒中全症例を対象として 2 つの DB を構築している．前向き DB は 1,300 項目以上の急性期データがあり，約 1 万 6,000 例（対象症例の 89%），後ろ向き DB には約 1 万例が登録されている．このきわめて高精度の脳卒中コホートを用いて，脳卒中の発症予防や重症化を防ぐエビデンスを構築している．

日本リハビリテーション・データベース　徳永　誠氏ら ····· 129

リハビリテーション診療に関する DB には，多施設データの利点，リハビリテーション治療の可視化と質の向上，臨床試験や診療報酬・介護報酬への貢献，臨床研究の活性化など多くの有用性がある．日本リハビリテーション・データベース（Japan Association of Rehabilitation Datebase；JARD）には，脳卒中（一般病棟）が約 1 万例，脳卒中（回復期病棟）が約 6,000 例，回復期リハビリテーション病棟協会の脳卒中 DB には脳卒中約 1 万 5,000 例が登録されている．JARD は現行データの入力が中断されており，早期の再開が望まれる．

脳卒中診療における DPC データの活用　金沢奈津子氏ら ····· 133

診療報酬請求データを二次利用して作成されたのが DPC データである．わが国の一般病床の約 66% を占める DPC 算定病床から得られた大規模診療情報 DB である．診療報酬を請求するために作成されたデータであることから，診療行為に関する情報は入院・外来ともにすべて記録されるという強みがある一方，脳卒中登録という疾患登録に比べると細かな臨床情報を含まないという弱みもある．DPC-DB を研究に活用することの最大のメリットはその規模にある．

書評

音声障害治療学（評者：深浦順一）····· 105
集中治療，ここだけの話（評者：市原　真）····· 113
サルコペニアを防ぐ！―看護師によるリハビリテーション栄養（評者：藤島一郎）···· 127
研究の育て方―ゴールとプロセスの「見える化」（評者：和座雅浩）····· 140

2026/11/11 09:21:32